

図書館報 みずもと

第21号

2005年10月

— 目次 —

● 教員投稿

図書館の電子化の未来に思うこと
(教育研究等支援機構 棚次 亘弘)
大学図書館との出会い
(応用化学科 長谷川 靖)

● 特集 情報検索

コンピュータで学術情報 Get!

● 図書館から

図書館からのお知らせ
新着図書紹介
貸出分野ベスト5
図書館利用統計
蔵書統計

● 連載エッセイ ～ その2

もう一つの出会い
(共通講座 マルギット クラウゼ=小野)

室蘭工業大学附属図書館

図書館の電子化の未来 に思うこと

教育研究等支援機構 棚次 亘弘

人は他人が得た知見を基に自ら新しい知見を得、また、自らが得た知見を他人のために残すことができる。この能力は他の動物にもある程度は見られるが、人類は獲得した知見を高度に集積し、それを利用するための技術を持っている。他人に知見を伝達できる技術によって、人類は高度な文化を構築できるようになった。図書館は、知見を集積し、それを提供する場であり、その媒体として主に図書がある。この図書の存在によって、図書館のイメージの大部分は決定付けられてきたのではないだろうか。疑問を抱えながら書架の間を進んでいくと何となく安堵感に包まれていくのは、膨大な図書が「必ずこの中に解がある」と信じさせるからであろう。しかし、一方では膨大な図書の中から「的確な解が見つかるだろうか」との焦りも出てくる。

以上は私の従来の図書館に対して抱いていたイメージであるが、近年、書籍や文献およびその管理の電子化が進み、図書館に対するイメージは変わってきた。電子化による最も大きな利点は、コンピューターの検索能力であろう。これによって欲しい情報を探し出すことが容易になり、また各種の図書情報ネットワークや World Wide Web 等を利用して、学内だけではなく広く世界中の情報を得ることが可能になった。

更に、電子化によって、文字、図画や写真等が電子媒体に記録できるようになり、従来の紙製の図書から電子媒体への移行が進んでいる。最近、学会の論文集は CD-ROM で配布したり、Web 上からダウンロードすることが多くなったが、入出力が容易なコンパクトな記録媒体の利用によって、館内の景観も変わっていくであろう。

更に、記録サイズの大きな映像や音声のような動的な知見も電子化による記録媒体のコンパクト化および入出力の容易な収録・再生技術の進歩によって



利用できるようになり、電子版の広辞苑では動物の鳴き声が収録されている。このような知見の記録媒体も図書館が扱うことになるであろう。

更に、最近、コンピューターの雑誌で、臭い（香り）もネットワークで送れることが紹介されていた。視覚を構成する3原色と同じように、臭覚の幾つかの原臭を組み合わせることで目的の臭いを発生する装置を用いるようである。視覚や聴覚に加えて、臭覚でも知見を他人に伝達できることになる。このような臭覚による知見の集積も図書館が扱うことになるであろう。

更に、味覚や触覚による知見の収録が可能になれば、人間の全ての感覚（五感）を用いた知見の伝達が可能になり、極めて正確に人の経験を他人に移植することができ、人類の知見の集積は極めて高度なものとなるであろう。正に他人の苦しみを自らのものとして実感でき、歴史上繰り返されてきた人類の愚行に終止符を打つことができるかも知れない。

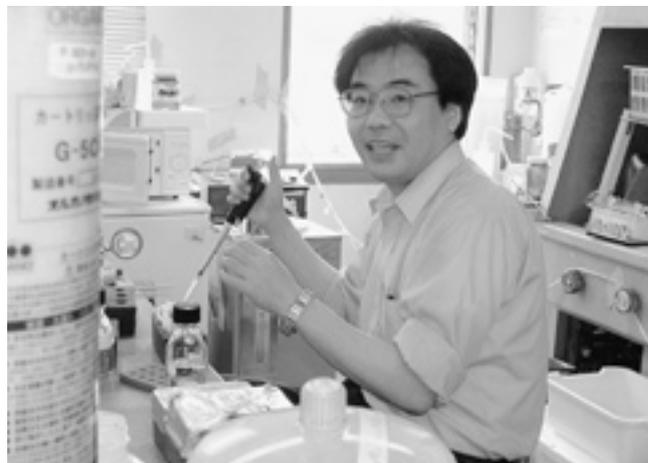
ここまで来れば、更に、第六感も加えたいくなるが、さすがにこれは非科学的な領域で顰蹙（ひんしゆく）を買うかもしれない。

また、図書館の電子化は、電子ネットワークの発達とも相まって、図書館のバーチャル化をもたらすことになるであろう。要するに、図書館に行かなくとも何処からでも図書館を利用できることになる。図書館を実体のある空間として利用する人達にとっては大変寂しいことになるかもしれない。

このように図書館がバーチャル化したとしても、「人が得た知見を集積し、それを人に提供することによって、人はその知見を基に自ら新しい知見を得、それをまた集積する」と言う図書館の基本的な機能には変わりはなく、より高度化された知見の集積と提供技術を駆使して、図書館は人類の知的資産を管理する重要な任務を担い続けるであろう。

大学図書館との出会い

応用化学科 長谷川 靖



もう 20 年前近くになりますが、大学図書館を利用していた学生時代をふり返ると、大学 1, 2 年生時の教養学部に行ったとき、現在の学生と同様、試験前に教養図書館で参考書を探し勉強したことが思い出されます。しかし、大学図書館を頻繁に勉強等に利用した記憶が残念ながらほとんどありません。学内にはいくつかの図書館がありましたが、教養図書館の利用者がほとんど若い教養の学生であるためか、私語が飛び交う騒々しい空間であったためです。しかし、時間の空いているときに雑誌を読んだり、新聞を読んだりする暇つぶしの空間としては居心地のよい空間であったように思います。

一方、文科系の学部の近くにあった図書館（本館）では、館内の様子が大きくかわっていました。教養学部に行ったときは場所的に遠いことからほとんど足をむけたことがありませんでしたが、館内に入ると、図書館独特の静けさがあり、利用者もまた文系の大学院生らしき学生、年配の人が多く、図書館独特の静けさと雰囲気があったように思いますが、長い学生生活での利用頻度は数少ないものでした。

私が、大学図書館を頻繁に利用しはじめたのは、研究室に所属するようになってからでしょうか。大学院に進学後は、文献を非常に数多く読むようになり、生物系の雑誌(Journal)が非常に豊富にあった医学部図書館に頻繁に通うようになりました。私の所属していた理学部にも図書館がありましたが、その蔵書は非常に数少ないものであったことから、医学部図書館を主として利用していました。医学部図書館には、数十年前の文献から最新の文献まで非常に多くの Journal が取り揃えてあり、全学の学生、教職員が利用していました。大学院（修士課程、博士課程）在学中において大学図書館の有難さを感じた時期でもあります。医学部図書館は、一般的な図書はほとんどなく、Journal がメインの図書館であることから、利用者も教職員、大学院生ばかりでその

雰囲気も非常に静かな環境です。静かに本を読む、勉強するという空間ではなく、雑誌を探し、文献をコピーすることが利用者の主目的である図書館です。現在のように、本学においても利用できる電子ジャーナルが導入され、種々の Journal がインターネット上で読むことができる便利な状況になるとはその当時は思いもよりませんでした。電子 Journal の導入により、見ることのできない文献も多くありますが、文献をさがしに行く人もかなり減少したのではないのでしょうか？

大学図書館といっても、蔵書の種類によっても利用者が大きく異なっており、そしてその雰囲気も大きく変わってくるようです。市民図書館なども大学図書館とはまた異なる雰囲気をもっているように思います。室蘭工大のような、単科大学では、学生、高校生、一般とその利用者も様々であり、また蔵書も多岐に渡っています。図書館の利用目的も勉強する、レポートを書く、読書としての利用が主であるかもしれません。その雰囲気も私が学生時代に経験してきた大学図書館とは異なった雰囲気ですが、試験期間中は、私の経験した教養図書館に近い雰囲気でしょうか。図書館にはそれぞれ独特の雰囲気があります。ぜひ皆さんも長期の休みなどに他の大学のあるいは市民図書館などに行きその雰囲気をあじわってみてはいかがでしょうか？

また、大学図書館には、古い蔵書をはじめ、本屋さんではみつけることのできない隠れた蔵書が多々あります。今思えば、様々な図書館でより多種多様の本を読んでおけばよかったと後悔します。専門分野だけではなく、様々な一般教養の知識は、いつか必ず役に立つものであり、時間の十分にある学生時代にこそ身に着けておけばよいものだと思います。本学のみならず、色々な大学図書館をも利用し、より多くの本を読んでみてはいかがでしょうか？

コンピュータで学術情報 Get!

“CiNii を使ってみよう”

「図書館で調べものをする」。そう聞くと「事典や目録といった分厚い『本』をひたすらめくって調べるもの」だと思っていないですか？ ところが、今はコンピュータ(+インターネット)を使ってさまざまな学術情報を入手することができるのです。

今回は国立情報学研究所が提供しているサービス CiNii (NII 論文情報ナビゲータ)を紹介します。

○CiNii(サイニイ)って、なんだろう？

国立情報学研究所(NII)が提供している論文検索サービスで、下記のデータを一括して検索することができます(件数は2005年4月1日現在)。

- ・ 電子図書館サービス (国立情報学研究所) 約 204 万件
- ・ 引用文献索引データベース (国立情報学研究所) 書誌情報 約 92 万件
引用情報 約 1002 万件
- ・ 研究紀要目次速報データベース (各大学の共同入力) 約 60 万件
- ・ 雑誌記事索引データベース (国立国会図書館) 約 646 万件

世の中には膨大な数の学術雑誌があります。それを1冊ずつ読んで自分が必要とする内容が書かれた論文や記事を探すというのは、とてもじゃないけどできません。しかし、このCiNiiを使えば効率よく情報を選び分けることができるのです。

○まずは検索してみよう

The screenshot shows the CiNii search page. At the top, there is a header with the CiNii logo and the text 'NII 論文情報ナビゲータ 国立情報学研究所 Citation Information by NII'. Below the header, there is a search bar with the text '白鳥大橋' entered. A callout box points to the search bar with the text: '検索語を入れて[検索]ボタンをクリック。ここでは「白鳥大橋」について書かれた論文を探してみます。'. Below the search bar, there is a '詳細検索' (Advanced Search) section with a table of search criteria. The table has three columns: '検索対象' (Search Target), '検索語' (Search Term), and '検索語の組合せ' (Search Term Combination). The rows are: '著者名' (Author Name), 'AND' '論文名' (Article Title), 'AND' '雑誌名' (Journal Name), and 'AND' 'ISSN'. The '検索語' column is empty for all rows. The '検索語の組合せ' column has 'すべて含む' (Include all) for the first two rows and is empty for the last two. A callout box at the bottom right of the screenshot says '……すると' (Then...). On the left side of the screenshot, there is a sidebar with a 'ログイン' (Login) button and a 'ディレクトリ' (Directory) section with links to 'CiNii', 'SCI/SSCI/AMCI', and 'CiNii+SCI/SSCI/AMCI'.

○検索結果はこんな感じ

論文を書いた著者



この論文は 12 件の論文を引用していることがわかります。
画面下部 references 欄でその一覧が確認できる他、論文タイトルをクリックするとその論文の詳細画面にジャンプすることができます。

こうして、読みたい論文が見つかったら……

○資料のある場所を探してみよう

附属図書館の蔵書検索(OPAC)で室蘭工大で所蔵している資料の検索をすることができます。
先ほど調べた論文が掲載されている雑誌「土木学会論文集」を検索してみると……。

The screenshot shows the OPAC search results for '土木学会論文集'. The search results are displayed in a table with the following columns: No., 配置場所, 所蔵番号, and 備考. The first entry is circled in red, showing '1. 建設-共通' under '配置場所' and '(1984-2005)344-694, 697-792+' under '所蔵番号'. Below the table, there is a section for '雑誌詳細' (Journal Details) for '和雑誌<ZWO0002013>' (Japanese Journal <ZWO0002013>). The details include: 書名・著者名等 (Title/Author) '土木学会論文集 / 土木学会 = Proceedings of JSCE / Japan Society of Civil Engineers', 巻次・年月次 (Volume/Year) 'No. 344 (1984. 4)-', 出版者・出版年 (Publisher/Year) '東京：土木学会, 1984. 4-', 形状・大きさ (Format/Size) ': 26cm', NCID 'AN10014020', 本文の言語 (Language) '日本語', ISSN '02897806', and 関連雑誌リンク (Related Journal Links) '継続前誌: 土木学会論文報告集||ドボク ガッカイ ロンブン ホウコク'.

探している論文が掲載されている「土木学会論文集」の537号は建設システム工学科に所蔵されていることがわかります。その場所に行って雑誌を探せば、目的の論文を読むことができるわけです。

もし、見つかった論文が掲載されている雑誌が室蘭工大にない場合は、必要な論文のコピーを他大学から(有料で)取り寄せることもできます。詳細は附属図書館 Web サイト内「ILL (文献複写・資料借用) 申込について(<http://mitlib.lib.muroran-it.ac.jp/ILL/ill>)」を参照してください。

The screenshot shows the 'ILL (文献複写・資料借用) 申込' page for library members. The page title is 'ILL (文献複写・資料借用) 申込 学内構成員のみ'. Below the title, there is a button labeled '→ ILL申込フォームの画面へ'. Below the button, there is a paragraph of text explaining the ILL service: 'ILLとは、本学に必要とする雑誌や図書を所蔵していない場合に、その資料を所蔵している他の図書館から、文献のコピーを取り寄せたり、資料の借用したりすることができるサービスのことです。本学構成員限定のサービスで、掛かる経費(複写料・送料等)は申込者負担(公費払い可)となります。'.

このように、CiNii では日本国内で書かれた雑誌記事を効率よく探すことができます。
このCiNii以外にも、インターネットを介して学術情報を入手できる手段がたくさんありますが、その紹介はまたの機会に。

お知らせ

飲み物の持込について

本年4月より、図書館内に飲み物を持ち込んで、飲用しても良いことになりましたが、許可されているのは、キャップの付いたものだけです。ご協力をお願いします。

キャップ付き飲料水



リングプルの付いた 缶飲料水



紙パック飲料水



紙コップの飲料水



なお、図書館内でガムをかんだり、お菓子を食べたり、食事をするのは、今までどおり禁止されています。

CD-ROM検索用パソコンのお知らせ



図書館1階のパソコンコーナーに、理科年表CD-ROMや用語辞典のインストールされているパソコンを設置しましたのでご利用ください。

グループ学習室の予約について

図書館には2つのグループ学習室がありますが、使いたい時にふさがっていることが、しばしばあります。

そんな時には、先の利用者の終了予定時間の30分前から予約を入れることができることになりましたので、ご利用ください。



新 着 図 書 紹 介

『ゲノム敗北：知財立国日本が危ない!』

岸宣仁著 ダイヤモンド社, 2004. 9

(配架場所：1F開架書架467.3)

ヒトゲノムの解読が終了した2003年4月、アメリカのブッシュ大統領とイギリスのブレア首相はテレビ放送を通じ、世界に向けて、誇らしげに解読の終了を宣言した。解読率はアメリカ59%、イギリス31%。日本はわずかに6%であった。

しかし、この遠大な計画は、一人の日本人研究者により世界に先立つこと5年も早く構想されたものであった。なぜ日本は負けたのか。この本は、その原因を探り、科学行政にメスを入れ、その問題点を解明していく。



『東は東、西は西：イギリスの田舎町からみたグローバリズム』

小林章夫著. 日本放送協会, 2004. 6

(配架場所：2F開架書架 NHKブックス)

イギリスに長期滞在した日本人の目を通したイギリス論で、グローバリズムについて語っている硬派の本ではない。逆に反グローバリズムとでも呼ぶべき、イギリス人の生活のこもごもを綴ったもの。文章はとても読みやすく、わかりやすい。

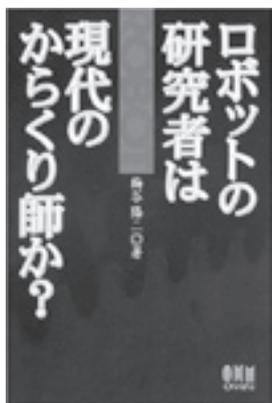


『ロボットの研究者は現代のカラクリ師か?』

梅谷陽二著. オーム社, 2005. 3

(配架場所：1F 開架図書 548.3)

日本では、多様なロボットが作られている。そのエンターテイナーぶりは、江戸時代の「からくり」と似ている。類似点はそれだけでなく、非生産的な事でも同様である。本書では、こうした「生産、販売、利用されることが少ない」ことが問題であるとし、商品としてのロボットを考えることが必要であると説く。技術者にも経済学的視点が必要であるということか。



『三国志の世界(後漢三国時代) 中国の歴史全12巻』

金文京編. 講談社, 2005. 1

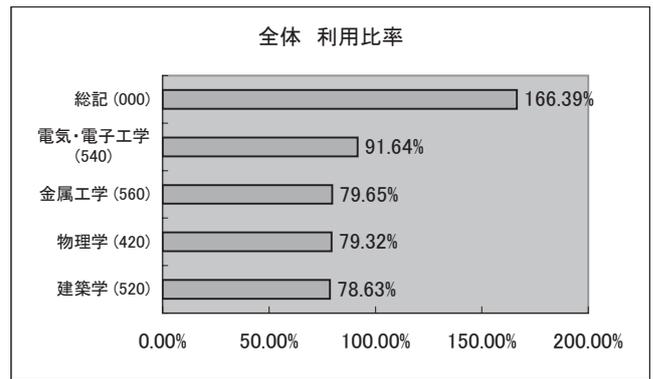
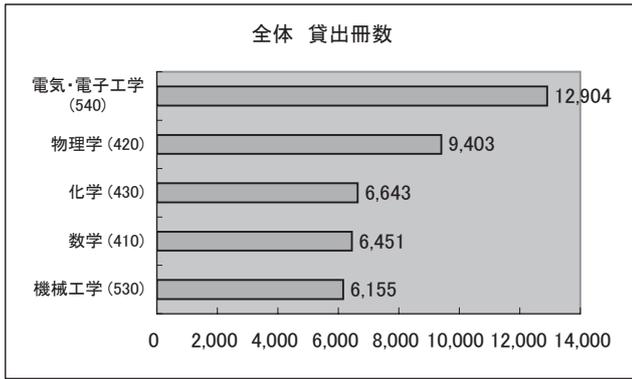
(配架場所：2F一般図書 222.01//v.4)

三国志には、多分にフィクションが含まれているが、本書では、それらを指摘し、リアルな三国志の世界を追求している。また、三国(魏蜀呉)の記述に偏りがなく、小説では軽視されがちな呉についての内容が新鮮である。

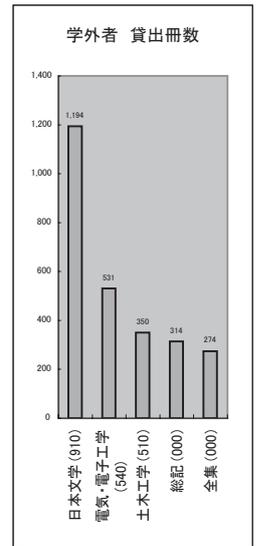
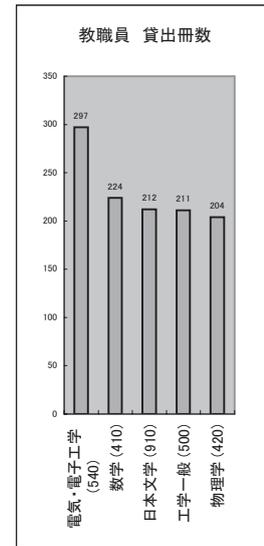
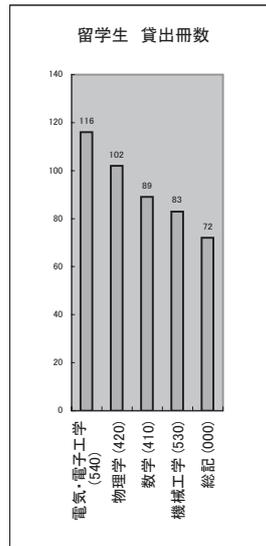
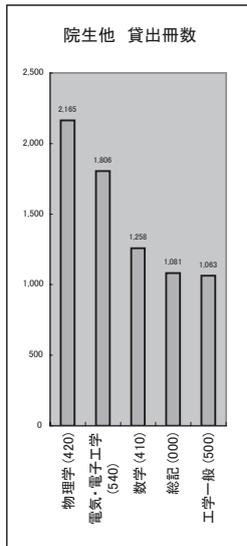
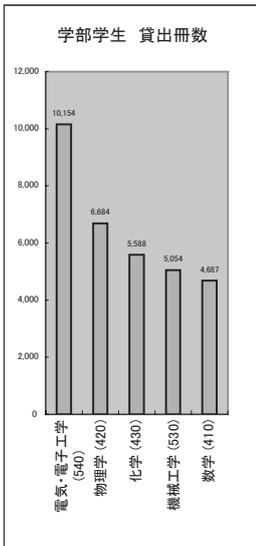
皆さんもテレビゲームではなく、読書で三国志に触れてみてはどうだろう。



貸出分野ベスト5



利用者区別の貸出冊数



※貸出冊数：過去3年間(2002年4月～2005年3月)における分野ごとの貸出冊数

※利用率(頻度)：貸出冊数をその分野の蔵書数で割ったもので、その分野の蔵書の利用頻度がわかる

—— トップは電気・電子工学 2位は物理学 3位は化学 ——

このたびの調査は、過去3年における100区分(日本十進分類法)の分野ごとの貸出冊数と、その分野の蔵書数との比率からみた利用率(頻度)を調べたものである。

傾

利用者区別の貸出冊数の傾向として、

学部学生では、電気・電子工学、物理学が多く、次いで、化学も多い。

院生では、物理学が電気・電子工学より多くなっており、その重要度が顕著である。

留学生では、上位は学部学生に似ている。

教職員では、教員の貸出が圧倒的に多いが、冊数の上位では、学生と類似している。4位に日本文学が入り、教養的な利用が多くなる。

学外者では、日本文学が群を抜いてトップである。

向

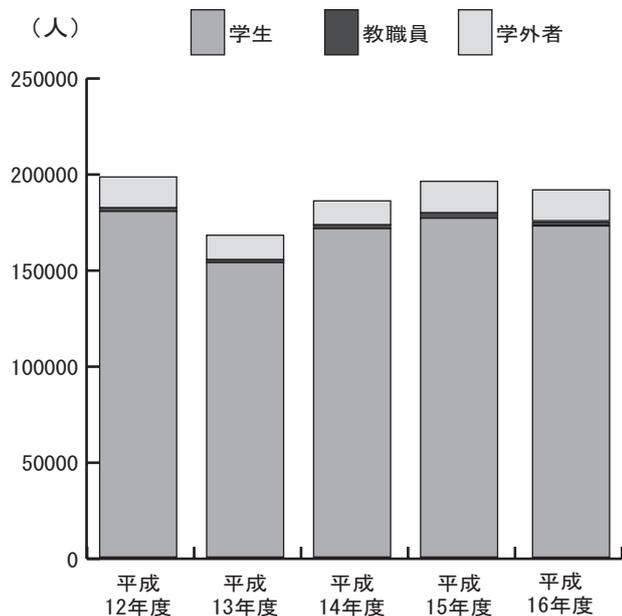
全体的な傾向としては、貸出冊数では、電気・電子工学関係、物理学関係が多く、利用率(頻度)では、総記関係、電気・電子工学関係が高い。その要因として、電気・電子工学関係には、コンピュータのハード・ネットワーク関係の分野が含まれており、この部分の貸出が多く、また、総記関係は、ほぼコンピュータのソフト関係の分野の貸出である。

学生(院生・留学生含む)については、おおよそ、その傾向がつかめたと思われるが、教職員・学外利用者については、調査期間を延長した方がさらに明確になるとと思われる。

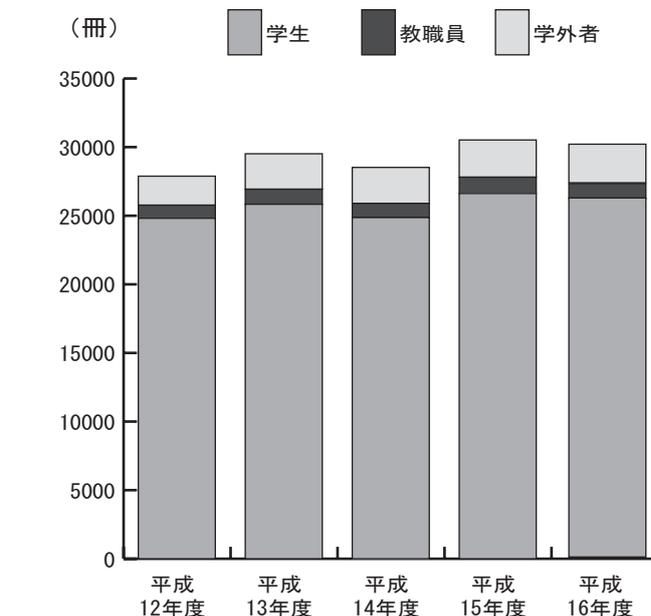
本館では、これらの調査結果を今後の選書に生かしていくとともに、貸出冊数・利用率(頻度)の多い分野については、さらに細かい分析を行い、利用者のニーズを正確に把握し、より良い選書及び蔵書構築に努めていきたい。

～ 図書館利用統計 ～

年度別入館者数



年度別貸出冊数

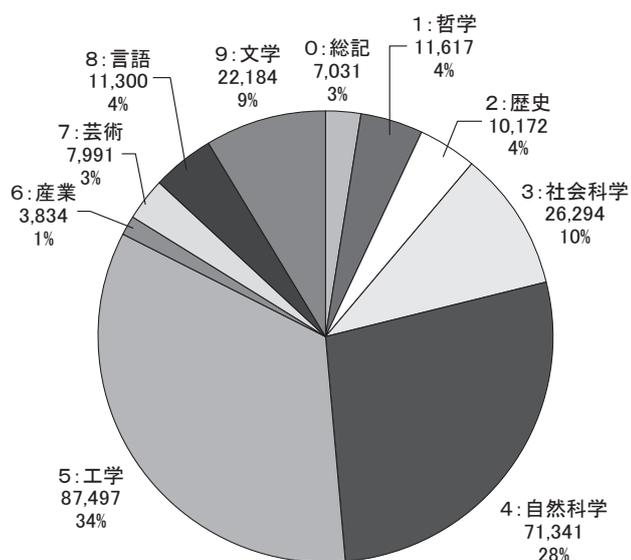


年度	学生	教職員	学外者	合計
平成12年度	179,911	1,861	16,039	197,811
平成13年度	153,250	1,518	12,734	167,502
平成14年度	170,931	1,966	12,488	185,385
平成15年度	176,357	2,789	16,428	195,574
平成16年度	172,380	1,612	14,604	188,596

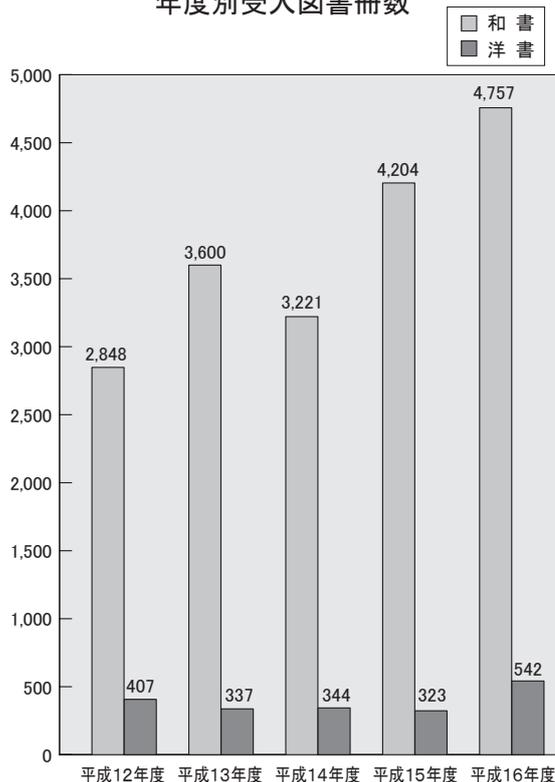
年度	学生	教職員	学外者	合計
平成12年度	24,814	956	2,113	27,883
平成13年度	25,836	1,098	2,581	29,515
平成14年度	24,866	1,033	2,622	28,521
平成15年度	26,620	1,189	2,711	30,520
平成16年度	26,165	1,100	2,813	30,078

～ 蔵書統計 ～

平成16年度分野別蔵書統計



年度別受入図書冊数



(本あるいは図書館をめぐるエッセイ その2)

もう一つの出会い

共通講座

マルギット クラウゼ=小野

前回は私が日本へ旅立ったところまで書きました。その後について語る前に、もう一度フランスでのことに触れなければなりません。

前回は述べたように、私は『皇帝のマントの上のラクダ』と出会ったがためにフランスでアラビア語を学ぶことになった訳ですが、今回取り上げる本との出会いのきっかけは大学の入学手続きの際のやり取りでした。担当の人が私に尋ねました。「専攻はアラビア語一つだけでいいんですか？ それとも他の外国語も加えますか？」と。それまでに身につけた英語力も失いたくはなかったため、結局私は英語と一緒に専攻することにしました。

このときの決断がその出会いを生んだ訳です。著者の名前はローリー・リー。題名は『ロージーとリンゴ酒』。この本は、受講した「現代英文学」で読むことを義務づけられた本の一つでした。しかし、それを手に取り読み始めるや否や、私はあっという間にその世界に引き込まれてしまいました。

著者が描いているのは、イギリスのコッツウォールドというところで過ごした自分の幼少年時代のことです。物語の中で何か特別なことが起きる訳ではありません。それでも日々の出来事や人間、自然などの取り上げ方は著者の人間味の豊かさを感じさせるもので、読者は気がつくといつの間にかその世界に入り込んでいるのです。自分はその物語の舞台に確かにいた。そんな気さえてくるのです。

この本はいくつかの章に分かれています。そのタイトルはいたってシンプルなもの。村の学校とか台所、母、冬と夏といった具合です。このシンプルさの持つ力と言いましょか。その響きの中に、自分の過去が鮮やかに蘇ってくる人も少なくないことでしょう。そしてその語り口も私には言葉の宝石のように思えます。この本には読む人の心を静め、慰め、己の来し方・行く末を考えさせる力があるのです。

良書と言われる本は、人間の内なる様々な問題に真摯に取り組んでいます。答えが見つかるかどうかは分かりません。しかし、似たような問題や悩みを



抱える人間が自分以外にもいるということを知ること、大いに勇気づけられるのは間違いのないことです。相対化されることで自分の心は軽くなります。孤独もまた別な相貌を帯び始めるでしょう。

働き始めてからというもの、私は日本に暮らし続けています。その間に家族もできました。そんな私の中に、ローリー・リーはずっと生きています。折に触れ、私は『ロージーとリンゴ酒』を手に取ります。物事に対しポジティブにもネガティブにもなりすぎることがないよう、彼は私の心のブレーキとアクセルを巧みに操作してくれるのです。

6年ぐらい前のことになるでしょうか。私はたまたま本国イギリスでこの本がどう見られているのか実際に知る機会を得ました。驚いたことに、『ロージーとリンゴ酒』はイギリスの学校で絶対に読まなければならない本の一つとされていたのです。こうした事実を知り、私はフランス時代のことに納得がきました。これは本国イギリスで大きな敬意を払われている作品なのです。イギリス人にとっては、その最も良い意味で「故郷の本」なのです。そこに描かれているのは過去の村人の暮らしで、今はもう存在していないものです。しかし、それを読むと、自分も村人の一員なのだという感情がどうしても湧き上がって来るのです。巧みな物語の語り手のように、この本は当時の情景を鮮やかに蘇らせ、大切な記憶が忘却の闇に沈んでしまうのを防いでくれているのです。

本の持つ力の素晴らしさ。これは私にそのことを強く実感させてくれる本なのです。

平成17年度後期 図書館開館カレンダー

開館 時間 区分	1 2 … 9:00~21:00	1 2 … 10:00~16:30	1 2 … 休刊日
	1 2 … 9:00~17:00	1 2 … 9:00~16:30	

2005年 10月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2006年 1月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

2月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	*4
*5	6	7	8	9	10	*11
*12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

12月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

3月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

*のついた日は、定期試験期間中（開始日1週間前～試験終了日）のため、開館時間は、以下のとおり延長となります。ご注意ください。

土曜日 / 9:00~21:00 日曜日・祝日 / 10:00~21:00

編集発行 室蘭工業大学附属図書館

〒050-8585 北海道室蘭市水元町27番1号

Tel 0143-46-5187 FAX 0143-46-5196

図書館のホームページ <http://mitlib.lib.muroran-it.ac.jp/>